



2015年7月28日

株式会社 リクルートライフスタイル

# 「じゃらん宿泊旅行調査 2015」



- 2014年度の宿泊旅行実施率は、56.9%（前年度比0.6pt減）
- 宿泊旅行での費用総額は、2010年度以降最大の約7.5兆円（前年度比2.0%増）
- 旅行費用総額は単価の上昇により3年連続の増加

株式会社リクルートライフスタイル（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：浅野健）に設置された観光に関する調査・研究、地域振興機関「じゃらんリサーチセンター」（センター長：沢登次彦）は、この度、全国1万5516人の宿泊旅行者を対象に「じゃらん宿泊旅行調査2015」を実施しました。この調査は、観光などを目的とした宿泊を伴う国内旅行実態を把握するために進めている調査で、出張・帰省・修学旅行などを除いたマーケットの動向を調べています。2014年度（2014年4月～2015年3月）における国内宿泊旅行の実態について、その行き先や回数、旅行費用などの調査をし、今年で11回目の実施となります。主な結果は以下の通りです。

## <TOPICS>

### 【宿泊旅行実施率・延べ宿泊旅行者数】

- 2014年度（2014年4月～2015年3月）の宿泊旅行実施率は56.9%と、前年度より0.6pt減少。
- 旅行実施者の1年間の旅行実施回数も2.79回と前年度より0.05回減少。
- 延べ宿泊旅行者数は1億5110万人で前年比3.1%減少するも、2010年度以降では2番目に多い。

..... P3

### 【宿泊旅行にかけられた費用】

- 国内宿泊旅行にかけられた費用総額（交通・宿泊・現地小遣いなど）は約7.5兆円。前年度から2.0%の増加。
- 1回の宿泊旅行費用（大人1人あたり）は4万9200円で、前年度より2400円増加。2009年度以降では最多額。
- 主な宿泊地での現地追加消費額は飲食7063億円、買い物4073億円、体験・観光2571億円など。

..... P4-5

### 【同行形態】

- 「一人旅」は2004年度の調査開始以来、10年連続増加し15.9%。
- 特に、20～34歳男性では2004年度からは12.0pt増加して、26.9%に達した。

..... P6

### 【都道府県別の延べ宿泊旅行者数と増減】

- 延べ宿泊旅行者数トップは東京都。沖縄県が10位にランクイン。トップ10内で延べ宿泊旅行者数が増加した道府県は北海道（37万人）、沖縄県（19万人）、福岡県（18万人）、京都府（13万人）。
- 福井県と高知県で20%以上の増加率を記録。

..... P7

### 【テーマ別・都道府県魅力度ランキング】

▶ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった	1位	高知県	2位	北海道	3位	富山県
▶ 魅力のある特産品や土産物が多かった	1位	沖縄県	2位	鹿児島県	3位	京都府
▶ 魅力的な宿泊施設が多かった	1位	沖縄県	2位	大分県	3位	千葉県
▶ 地元の人へのホスピタリティを感じた	1位	沖縄県	2位	鹿児島県	3位	岩手県
▶ 子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	千葉県	2位	沖縄県	3位	和歌山県
▶ 若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	千葉県	2位	沖縄県	3位	大阪府
▶ 大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	1位	沖縄県	2位	千葉県	3位	京都府
▶ 現地で良い観光情報を入手できた	1位	沖縄県	2位	奈良県	3位	京都府

..... P9-10

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press/>

## 調査概要

- ◎調査名 じゃらん宿泊旅行調査2015
- ◎調査方法 インターネットによる調査
- 1次調査
- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者を抽出することに加え、性・年代別の宿泊旅行実施率を知るために実施した。
- ②調査時期 2015年4月1日（水）～13日（月）
- ③調査対象 全国20～79歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④配信数 317,367件
- ⑤調査内容 2014年度（2014年4月～2015年3月）1年間の国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の有無について
- ⑥回収数 80,000件（回収率25.2%）
- ⑦1次調査集計対象者数 20,000件
- ※2次調査において都道府県別、性・年代別の割付にあった回収が得られるように配信した。
    - ・配信数と割付について
      - 2次調査のセル別目標回収数は、『平成22年 国勢調査』の都道府県別・性・年代別の人口に概ね従うように47都道府県を5ランクに分けサンプル数を割り付けて配信した。ランクごとに6：5：3：2：1の割合で、合計約15,400件の回収を目標とした。
      - 2次調査の配信数は、ウェイトバック値のバランスをなるべく揃えるために、県別に均等割付ではなく、ランクを設けて割付を行った上で、1次調査および追加調査の旅行実施者45,579件を都道府県ごとに分配し、サンプル数を割り付けて配信した。
    - ※回収された80,000件のうち都道府県別・性・年代別に割付を行い20,000件を抽出。性・年代別宿泊旅行実施率を算出。
- ⑧2次調査対象件数 45,207件
- 2次調査
- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者に対して、宿泊旅行の内容を知るために実施した。
- ②調査時期 2015年4月9日（木）～21日（火）
- ③調査対象 45,579件（うち、同居家族モニター372件）
- ・1次調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人：45,207件
  - ・追加調査において、「昨年度1年間に国内宿泊旅行をした」と回答した人のうち、調査協力が得られた60歳以上の家族本人：372件
- ※調査回収難度が高い60歳以上の回収数を増やすために追加調査を実施した。追加調査は株式会社マクロミルの登録モニターのうち60歳以上の家族と同居しているモニターを対象として該当家族が同席する上で回答という条件で実施。（回収数10,000件<配信数38,825件 回収率25.8%>、2次調査対象者数372件）
- ④配信数 24,855件（うち、同居家族モニター55件）
- ※配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割付にあわせてランダムに抽出した。
- ⑤調査内容 昨年度1年間に実施したすべての宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の行き先と回数について、また1人最大3件までの個別宿泊旅行について、具体的な内容を調査した。
- ⑥回収数 15,516件（回収率62.4%）
- ⑦有効回答数 15,474件（うち、同居家族モニター34件、旅行件数ベース30,743件）

### ※集計・分析手法について

はじめに平成26年10月1日現在人口推計（総務省統計局発表）および1次調査結果を用い、全国の宿泊旅行者の母集団を推計した。次に、2次調査の集計・分析にあたり、推計された宿泊旅行者の母集団における都道府県別、性・年代別構成比に基づいてウェイトバックを行い、構成比のずれを補正している。

また今回は60歳以上の登録モニター数が少ない県について、60歳以上の家族と同居している登録モニターに代理回答を実施、2次調査の調査対象として追加した。

### ◇「じゃらんリサーチセンター」の概要

「じゃらんリサーチセンター」は、国をはじめ地方自治体、観光関連事業者にとって、すぐに使える情報を広く提供し、かつ、日本の観光振興にさまざまな切り口から提案を行うことで、新しい観光ムーブメントを創出し、観光産業全体のさらなる活性化に寄与することを狙いとし、2005年8月より、株式会社リクルート（現・株式会社リクルートライフスタイル）内に設置されている組織です。

2014年度(2014年4月～2015年3月)の延べ宿泊旅行者数は、2010年度以降では2番目に多い人数。宿泊旅行(※1)実施率は前年度より減少(0.6pt減少)。1年間の宿泊旅行実施回数は前年度より減少し、2.79回。

2014年度の1年間に宿泊旅行を行った人の割合は前年度比0.6pt減の56.9%。さらに実施者の年間平均旅行回数も前年度比0.05回減少したことで、延べ宿泊旅行者数(※2)は、前年度比3.1%減少して1億5110万人となった。ただし、2010年度以降では2013年度に続き2番目に多い数字となった。性・年代別では、20～34歳男性層が前年度比1.1%増加した以外は、すべての性・年代で延べ宿泊旅行者数が前年度比で減少。また、1回あたりの宿泊数は1.68泊。結果、延べ宿泊数(※3)は、2億5397万人泊と推計された。

- ※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く。ただし、友人・知人宅、車中泊、キャンプなど宿泊施設を利用しない場合でも、宿泊を伴う旅行であれば含める。
- ※2 延べ宿泊旅行者数・・・推計人口×宿泊旅行実施率×宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数
- ※3 延べ宿泊数(人泊)・・・延べ宿泊旅行者数×宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数
- ※ 宿泊数の設問形式を今回から変更した。主なエリアの宿泊数と他エリア、他の都道府県の宿泊数を分けて尋ね、それぞれ合算して平均宿泊数を算出。よって、2013年度以前の平均宿泊数、延べ宿泊者数(斜体の部分)は直接は比較できない参考値。

◇延べ宿泊旅行者数の推計方法

※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。

	H26年10月1日 現在人口推計	調査結果			推計値		
	人口 (万人) <A>	宿泊旅行 実施率 (%) <B>	宿泊旅行 実施者の 年間平均 旅行回数 (回) <C>	宿泊旅行 実施者の 1回の旅行あたり 平均宿泊数 (泊) <D>	実 宿泊旅行者数 (万人) A*B	延べ 宿泊旅行者数 (万人回) A*B*C	延べ 宿泊数 (万人泊) A*B*C*D
[2014年度]全国20～79歳男女	9,520	56.9	2.79	1.68	5,420	15,110	25,397
	前年との差→	▲ 0.6	▲ 0.05	前年との差→	▲ 70	▲ 489	
				前年比→	▲ 1.3%	▲ 3.1%	
[2013年度]全国20～79歳男女	9,557	57.5	2.84	1.60	5,491	15,599	24,972
[2012年度]全国20～79歳男女	9,598	55.8	2.71	1.61	5,354	14,505	23,445
[2011年度]全国20～79歳男女	9,646	57.6	2.64	1.63	5,561	14,686	23,987
[2010年度]全国20～79歳男女	9,672	56.7	2.73	1.64	5,489	15,020	24,686
[2009年度]全国20～79歳男女	9,653	60.3	2.79	1.65	5,819	16,239	26,778
[2008年度]全国20～79歳男女	9,688	63.1	2.84	1.68	6,110	17,355	29,235
[2007年度]全国20～79歳男女	9,707	63.8	2.83	1.69	6,196	17,514	29,604
[2006年度]全国20～79歳男女	9,686	64.7	2.77	1.69	6,269	17,366	29,325
[2005年度]全国20～79歳男女	9,722	66.1	2.78	1.72	6,424	17,875	30,856
[2004年度]全国20～79歳男女	9,707	65.4	2.73	1.68	6,350	17,343	29,024

※人口について、次の統計値を用いて調査を行っています。

2012年度：H24年10月1日現在人口推計  
2008年度：H20年10月1日現在人口推計  
2004年度：H15年10月1日現在人口推計

2011年度：H23年10月1日現在人口推計  
2007年度：H19年10月1日現在人口推計

2014年度：H26年10月1日現在人口推計  
2010年度：H22年国勢調査<速報>  
2006年度：H17年10月1日現在国勢調査人口

2013年度：H25年10月1日現在人口推計  
2009年度：H21年10月1日現在人口推計  
2005年度：H16年10月1日現在人口推計

◇性・年代別

延べ宿泊旅行者数の推移

	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
全国20～79歳男女	17,343	17,875	17,366	17,514	17,355	16,239	15,020	14,686	14,505	15,599	15,110
前年比	-	▲ 3.1%	▲ 2.8%	0.9%	▲ 0.9%	▲ 6.4%	▲ 7.5%	▲ 2.2%	▲ 1.2%	7.5%	▲ 3.1%
20～34歳 / 男性	2,219	2,201	2,036	2,075	1,975	1,879	1,612	1,608	1,450	1,537	1,553
前年比	-	▲ 0.9%	▲ 7.5%	1.9%	▲ 4.8%	▲ 4.9%	▲ 14.2%	▲ 0.2%	▲ 9.9%	6.0%	▲ 1.1%
20～34歳 / 女性	2,319	2,284	2,214	2,102	2,074	1,876	1,802	1,705	1,648	1,779	1,691
前年比	-	▲ 1.5%	▲ 3.1%	▲ 5.1%	▲ 1.4%	▲ 9.5%	▲ 3.9%	▲ 5.4%	▲ 3.4%	8.0%	▲ 4.9%
35～49歳 / 男性	2,045	2,175	1,833	2,106	2,084	2,069	1,888	1,902	1,864	2,038	2,028
前年比	-	6.3%	▲ 15.7%	14.9%	▲ 1.0%	▲ 0.7%	▲ 8.7%	0.7%	▲ 2.0%	9.3%	▲ 0.5%
35～49歳 / 女性	1,963	2,017	1,847	1,900	1,856	1,841	1,777	1,711	1,669	1,851	1,776
前年比	-	2.7%	▲ 8.4%	2.9%	▲ 2.3%	▲ 0.8%	▲ 3.5%	▲ 3.7%	▲ 2.5%	10.9%	▲ 4.0%
50～79歳 / 男性	3,959	4,472	4,424	4,310	4,414	3,946	3,578	3,601	3,543	3,941	3,795
前年比	-	13.0%	▲ 1.1%	▲ 2.6%	2.4%	▲ 10.6%	▲ 9.3%	0.7%	▲ 1.6%	11.2%	▲ 3.7%
50～79歳 / 女性	4,837	4,726	5,013	5,022	4,952	4,628	4,362	4,158	4,331	4,453	4,266
前年比	-	▲ 2.3%	6.1%	0.2%	▲ 1.4%	▲ 6.5%	▲ 5.7%	▲ 4.7%	4.2%	2.8%	▲ 4.2%

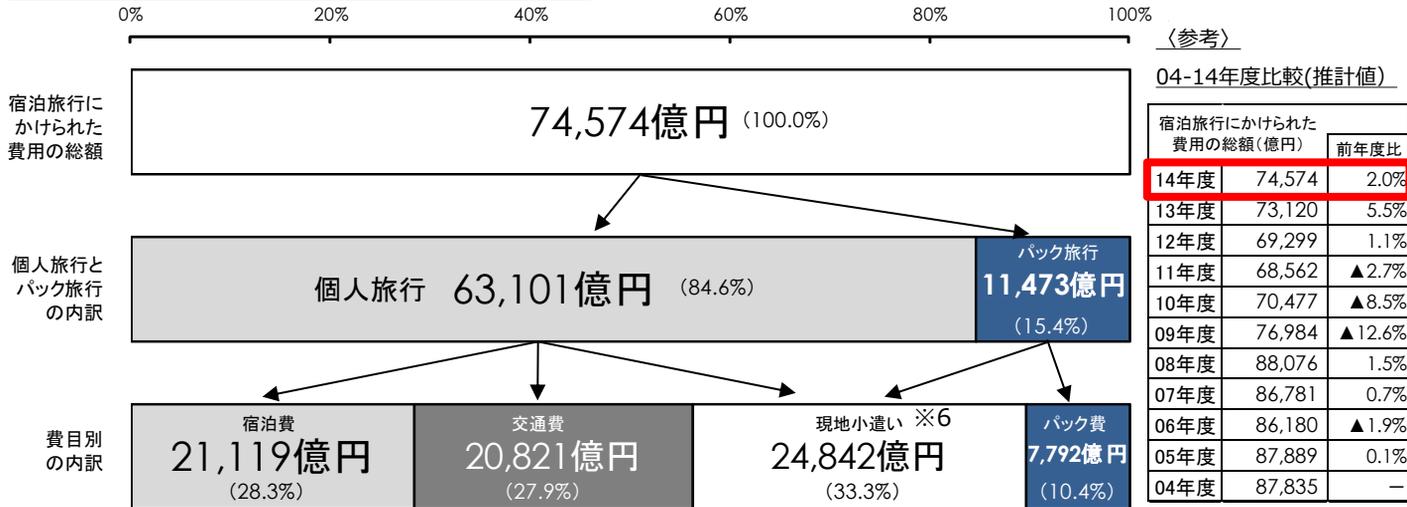
# TOPIC 宿泊旅行の費用総額

宿泊旅行にかけられた費用総額は約7.5兆円。前年度比で2.0%増と3年連続の回復。1回(大人1人あたり)の宿泊旅行にかかった費用は4万9200円。前年度より2400円の大幅増加で延べ宿泊旅行者数の減少をカバー。

1回あたりの旅行費用(※4)は、前年度4万6800円→4万9200円と2400円増加。個人旅行(※5)における内訳でみると、交通費が+1100円、宿泊費が+900円、現地小遣いが+500円と支出額がいずれも増加した。旅行手配は、個人旅行比率が88.9%と多数派で、ここ5年間では大きな比率の変化はない。

- ※4 1回の宿泊旅行にかかった費用(大人1人あたり)・・・1回の宿泊旅行にかかった費用について、個人旅行の場合、1人あたりの宿泊費・交通費・現地小遣いの合計。バック旅行の場合、1人あたりのバック費・現地小遣いの合計。20歳未満の子供を連れた旅行の場合は、全員でかかった費用を同行した大人の人数で割っている。
- ※5 個人旅行・・・個人で宿を手配した旅行で、旅行会社を通して宿を手配した場合も含む。

## ◇宿泊旅行にかけられた費用総額(推計値)



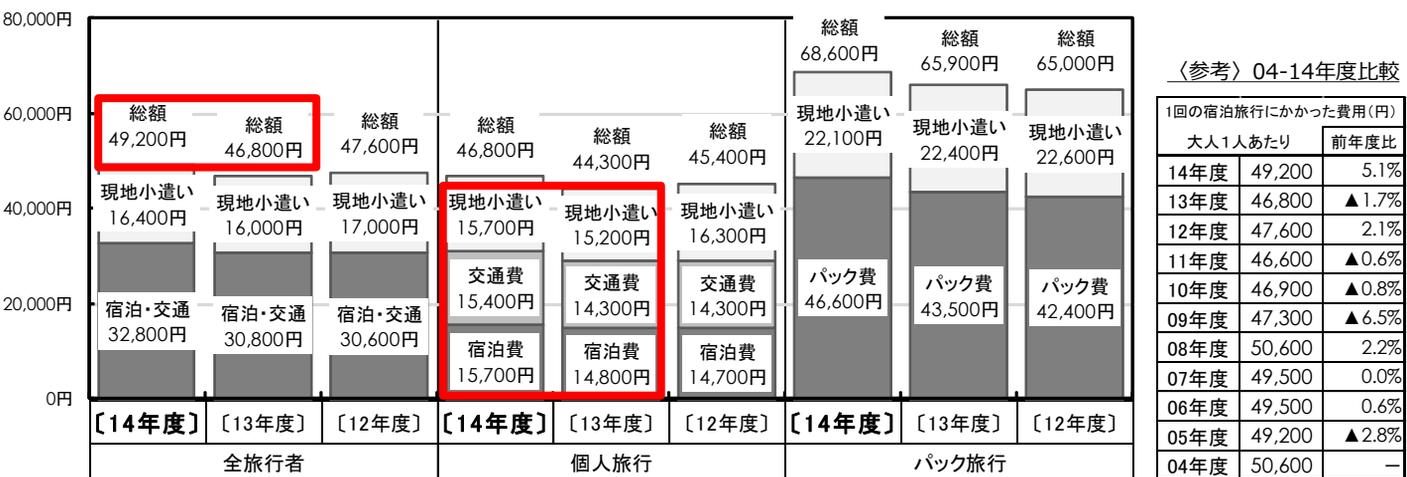
〈参考〉  
04-14年度比較(推計値)

宿泊旅行にかけられた費用の総額(億円)	前年度比
14年度	74,574 2.0%
13年度	73,120 5.5%
12年度	69,299 1.1%
11年度	68,562 ▲2.7%
10年度	70,477 ▲8.5%
09年度	76,984 ▲12.6%
08年度	88,076 1.5%
07年度	86,781 0.7%
06年度	86,180 ▲1.9%
05年度	87,889 0.1%
04年度	87,835 -

※6 現地小遣い・・・旅行先での飲食・買い物、遊興費、目的エリア内での移動費用を含む。

## ◇1回の宿泊旅行にかかった費用(大人1人あたり)

※金額については、百の位までの四捨五入で示しているため、合計が合わない場合があります。



〈参考〉04-14年度比較

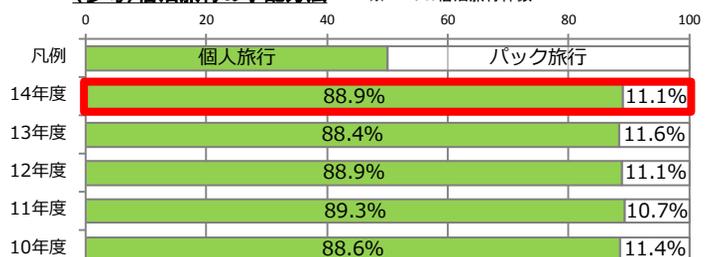
1回の宿泊旅行にかかった費用(円)	前年度比
14年度	49,200 5.1%
13年度	46,800 ▲1.7%
12年度	47,600 2.1%
11年度	46,600 ▲0.6%
10年度	46,900 ▲0.8%
09年度	47,300 ▲6.5%
08年度	50,600 2.2%
07年度	49,500 0.0%
06年度	49,500 0.6%
05年度	49,200 ▲2.8%
04年度	50,600 -

### <全国の宿泊旅行費用総額の推計方法>

- ①集計データより全国の性・年代別の個人旅行とバック旅行の延べ宿泊旅行者数を推計
- ②全国の性・年代・手配方法(個人orバック)別の旅行費用の平均値(単価)を算出
- ③全国の性・年代・手配方法別の延べ宿泊旅行者数に単価を乗じ、性・年代・手配方法別の費用総額を算出
- ④性・年代別の費用総額の結果を積み上げて全国の宿泊旅行費用総額を算出

### 〈参考〉宿泊旅行の手配方法

※ベース: 宿泊旅行件数



# 【参考】 主目的地での追加消費額の内訳

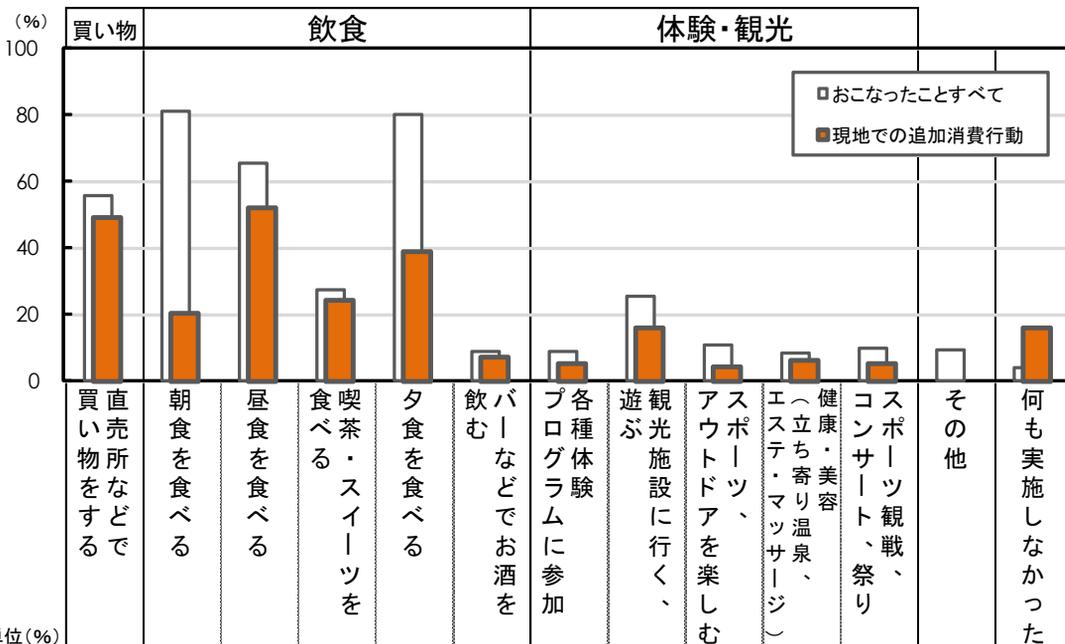
約2.5兆円の現地小遣い（前ページ参照）のうち、主な宿泊地での追加消費額は、飲食7063億円、買い物4073億円、体験・観光2571億円。

主な宿泊地に到着してから退場までの追加消費額（ツアーや宿泊プランにあらかじめ含まれていた費用以外）の内訳は、飲食費7063億円、買い物4073億円、体験・観光費用2571億円などであった。

「1回あたりの単価（大人1人あたり）」では、買い物で5500円、夕食で3090円、昼食で1490円、飲酒で4610円、観光施設で3280円などの平均単価となっている。

## ◇宿泊エリアでの消費行動（複数回答）、回数・金額（数値回答）、消費額（推計値）

※実施割合、平均回数・平均金額は、1人あたり最大3回までの旅行件数ベース



消費行動	実施割合 (%)	平均回数 (回)	平均金額 (円)
買い物	55.5	-	5,500
朝食を食べる	80.9	1.7	900
昼食を食べる	65.3	1.8	1,490
喫茶・スイーツを食べる	27.5	1.6	950
夕食を食べる	80.0	1.7	3,090
飲む	9.0	1.3	4,610
各種体験プログラムに参加	8.6	1.3	2,600
観光施設に行く、遊ぶ	25.3	1.4	3,280
スポーツ、アウトドアを楽しむ	10.7	1.6	4,650
健康・美容（立ち寄り温泉、エステ・マッサージ）	8.4	1.3	1,790
コンサート観戦、祭り	10.1	1.3	5,330
その他	9.4	-	-
何も実施しなかった	3.8	-	-

金額は十の位までの四捨五入

消費行動	現地での追加消費額推計 (億円)
買い物	4,073
飲食	7,063
体験・観光	2,571
その他	-
何も実施しなかった	13,708

- ※ 消費行動・・・宿泊プラン・ツアーに含まれていない行動を、主な宿泊エリアに着いてから出るまでに実施した割合。体験・観光に関する5つの項目「各種体験プログラムに参加」「観光施設に行く、遊ぶ」「スポーツ・アウトドアを楽しむ」「健康・美容（立ち寄り温泉、エステ・マッサージ）」「スポーツ観戦、コンサート、祭り」については、20の活動を5分類に括って算出した割合となっている。平均回数・金額も同様。
- ※ 平均回数・・・消費金額が0円の場合は実施した回数に含めない。
- ※ 平均金額・・・「1回目に支払った大人1人分の金額」の平均。「旅行中に支払った総額の大人1人分金額」の平均。0円は含まない。
- ※ 消費額推計の算出方法・・・①回答者それぞれについて、各消費行動の回数×1回目の単価で各消費行動の消費額を算出。②各消費行動の平均消費額を算出。③全国の延べ宿泊旅行者数に各消費行動の実施割合を乗じて各実施者数を算出。更に各行動の平均消費額を乗じて、消費総額を推計。
- ※ 追加消費総額・・・エリア内での移動費用など上記の項目以外の消費行動や、周遊先や移動中など主な宿泊エリア以外での消費行動は含まれていない。

「一人旅」は調査開始以来、10年連続増加し15.9%。  
特に20～34歳男性で「一人旅」がさらに増加して26.9%に。

最も割合が高いのは「夫婦二人での旅行」で24.5%。「小学生以下の子連れ家族旅行」「職場やサークルなど団体旅行」が減少傾向に歯止め。

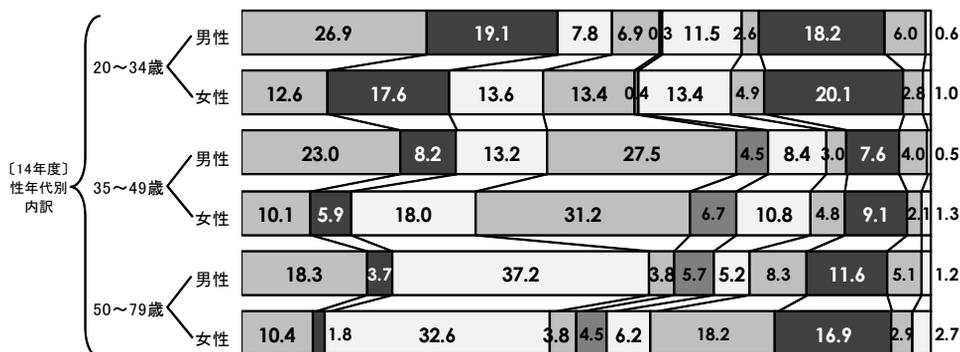
一方、「一人旅」は調査開始以来、10年連続の増加。性・年代別で見ると、「一人旅」は男性が女性よりも高く、特に20～34歳男性は、調査開始時点から12.0pt上昇し、26.9%に。

◇宿泊旅行の同行形態（単一回答）

<ベース：1人あたり最大3回までの旅行件数>

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

	一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	小学生以下の子連れ家族旅行	中学生以上の子連れ家族旅行	親連れ家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	職場やサークルなど団体旅行	その他
〔14年度〕全体	15.9	7.3	24.5	11.9	4.2	8.2	8.9	13.9	3.8	1.4
〔13年度〕全体	15.4	7.0	24.8	11.7	4.3	8.4	9.1	13.8	3.8	1.7
〔12年度〕全体	14.5	7.2	24.1	12.7	4.3	7.9	9.2	13.8	4.4	1.8
〔11年度〕全体	14.1	7.4	24.5	12.6	4.0	8.0	8.8	14.3	4.5	1.9
〔10年度〕全体	13.1	7.2	24.4	12.8	3.9	7.8	9.0	15.3	4.7	1.8
〔09年度〕全体	12.9	7.4	24.3	12.4	3.7	7.7	9.3	15.2	5.2	2.0
〔08年度〕全体	12.5	7.4	24.2	12.0	3.4	7.6	9.3	15.3	5.8	2.2
〔07年度〕全体	12.0	7.3	23.8	12.4	3.7	7.2	9.3	15.9	6.1	2.2
〔06年度〕全体	11.2	7.7	24.0	12.8	3.5	7.1	9.5	16.4	5.7	2.2
〔05年度〕全体	10.8	7.7	23.6	13.5	3.7	7.0	9.5	15.6	6.4	2.1
〔04年度〕全体	10.5	8.1	22.4	14.6	4.3	7.3	8.6	15.3	5.8	3.0



◇「一人旅」構成比の推移 <ベース：1人あたり最大3回までの旅行件数>

性・年代別		14年度	13年度	12年度	11年度	10年度	09年度	08年度	07年度	06年度	05年度	04年度
20～34歳	男性	26.9	26.1	23.2	23.3	20.9	21.6	20.1	20.3	19.5	17.7	14.9
	女性	12.6	11.6	10.2	10.7	10.0	10.3	9.2	8.6	8.7	8.2	7.2
35～49歳	男性	23.0	21.9	20.9	18.5	18.4	16.7	15.7	15.2	13.9	13.7	12.3
	女性	10.1	9.7	8.0	8.2	9.4	7.4	7.7	7.3	6.7	6.7	5.8
50～79歳	男性	18.3	17.7	16.9	17.4	14.1	14.1	14.6	13.1	12.2	12.5	13.6
	女性	10.4	11.0	11.3	9.9	9.8	10.3	9.6	9.5	8.8	8.1	8.8

「延べ宿泊旅行(※)者数の多い旅行先」都道府県、沖縄県が10位に上昇。上位10都道府県で延べ宿泊旅行者数が増加したのは4道府県。旅行者の増加率では福井県と高知県で2割以上の伸び率。

「延べ宿泊旅行者数の多い旅行先」の上位10都道府県の顔ぶれは、前年度と比べると沖縄県が兵庫県と入れ替わってトップ10入りした。2位北海道、7位京都府、9位福岡県、10位沖縄県で延べ宿泊旅行者数の増加がみられた。

延べ宿泊旅行者数の増加率1位は福井県。舞鶴若狭自動車道の全線開通などがあり、特に関西方面からの集客が伸びた。また、高知県も前年比で2割の大きな伸びがあった。その他、増加率上位の都道府県には、富岡製糸場の世界遺産登録効果などもあったと思われる群馬県などがランクイン。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。ただし、友人・知人宅、車中泊、キャンプなど宿泊施設を利用しない場合でも、宿泊を伴う旅行であれば含める。

※1回の旅行において複数の都道府県に宿泊した場合、それぞれの都道府県に旅行回数1回とカウントしている。

※1人あたり1年間に行ったすべての旅行回数を尋ねた結果から推計している。

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者数(推計値)

※上位10都道府県

全体						増減傾向				
2014年度 推計値		順位変動	2013年度 推計値	2012年度 推計値	2011年度推計値	2010年度推計値	14←13	13←12	12←11	11←10
全国	15,110万人		15,599万人	14,505万人	14,686万人	15,020万人	-	+	-	-
1位 東京都	1,702万人	←	(1位 1,720万人)	(1位 1,659万人)	1,453万人	1,499万人	-	+	+	-
2位 北海道	1,064万人	←	(2位 1,027万人)	(2位 1,025万人)	944万人	978万人	+	+	+	-
3位 静岡県	770万人	↑	(4位 831万人)	(5位 715万人)	787万人	784万人	-	+	-	+
4位 神奈川県	768万人	↓	(3位 832万人)	(4位 766万人)	781万人	837万人	-	+	-	-
5位 大阪府	749万人	↑	(6位 769万人)	(6位 706万人)	679万人	678万人	-	+	+	+
6位 長野県	720万人	↓	(5位 773万人)	(3位 785万人)	786万人	816万人	-	-	-	-
7位 京都府	704万人	←	(7位 691万人)	(7位 656万人)	690万人	687万人	+	+	-	+
8位 千葉県	598万人	←	(8位 662万人)	(8位 573万人)	572万人	593万人	-	+	+	-
9位 福岡県	517万人	↑	(10位 499万人)	(9位 474万人)	457万人	446万人	+	+	+	+
10位 沖縄県	515万人	↑	(11位 496万人)	(11位 431万人)	436万人	461万人	+	+	-	-

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者増加率

増加数(2014年度-2013年度推計値)

※増加率上位10都道府県

全体		
2014年度←13年度	増減率	増加数
1位 福井県	27.2%	32万人
2位 高知県	20.0%	22万人
3位 群馬県	18.1%	58万人
4位 和歌山県	16.4%	33万人
5位 青森県	13.6%	23万人
6位 石川県	12.0%	34万人
7位 徳島県	11.6%	9万人
8位 香川県	10.0%	14万人
9位 愛媛県	8.8%	14万人
10位 大分県	7.4%	23万人

【参考】ブロック別の延べ宿泊旅行者数増減

(2014年度-2013年度推計値)

		旅行先ブロック								
		北海道ブロック	東北ブロック	関東ブロック	甲信越・北陸ブロック	東海ブロック	関西ブロック	中四国ブロック	九州ブロック	沖縄ブロック
全体	14年度	1,064	1,316	4,022	1,922	1,761	2,461	1,455	1,843	515
	13年度	1,027	1,381	4,187	1,972	1,950	2,500	1,462	1,879	496
	12年度	1,025	1,307	3,953	1,934	1,686	2,331	1,325	1,722	431
	14-13年度増減	37	-66	-165	-50	-189	-39	-7	-36	19
居住地ブロック	北海道ブロック	5	-7	-12	3	4	5	-8	6	-4
	東北ブロック	17	-46	-37	-1	-14	17	-1	-8	7
	関東ブロック	-10	-46	-81	-19	-74	-49	36	48	5
	甲信越・北陸ブロック	3	-4	-42	-13	-26	12	1	6	-2
	東海ブロック	12	3	-29	-49	-64	7	3	-15	9
	関西ブロック	8	16	29	31	-14	-18	-3	8	-2
	中四国ブロック	1	2	14	3	-5	-16	11	-20	6
九州ブロック	3	9	-11	-1	5	3	-44	-61	-2	
沖縄ブロック	-2	7	4	-3	-2	0	-2	-1	0	

※全体増減/ー100万人以上:網掛け白文字、+100万人以上:網掛け黒文字 ※ブロック別増減/ー30万人以上:網掛け白文字、+30万人以上:網掛け黒文字

**【参考】**

**《選んだ理由別 都道府県ランキング》**

- 特定のイベントやアクティビティに興味・・・1位：沖縄県
- テレビや雑誌で話題・・・1位：長崎県
- 特定の観光地・スポットに興味・・・1位：島根県
- 食・特産品に興味・・・1位：沖縄県
- 良い宿・ホテル・・・1位：栃木県
- 魅力的な温泉・・・1位：群馬県・大分県

世界遺産暫定リスト入りで多数のメディアに掲載された長崎県が「テレビや雑誌で話題」で1位に。一方、富岡製糸場の世界遺産登録が話題だった群馬県は「特定の観光地」ではトップ10入りせず「魅力的な温泉」で1位に。

■特定のイベントやアクティビティに興味があったから

(単位：%)

2014年度 順位		2013年度 順位	
全体平均	29.6	全体平均	30.0
1位 沖縄県	41.6	1位 千葉県	41.9
2位 千葉県	41.2	2位 沖縄県	41.7
3位 長崎県	41.0	3位 大阪府	39.7
4位 大阪府	40.4	4位 三重県	38.9
5位 東京都	34.7	5位 福岡県	38.4
6位 高知県	34.3	6位 長崎県	36.6
7位 宮崎県	34.1	7位 新潟県	35.1
8位 長野県	33.9	8位 北海道	34.5
9位 福岡県	33.7	9位 青森県	33.9
10位 北海道	33.2	9位 宮崎県	33.9

■テレビや雑誌などで話題になっていたから

(単位：%)

2014年度 順位		2013年度 順位	
全体平均	20.5	全体平均	20.6
1位 長崎県	33.1	1位 島根県	47.9
2位 島根県	30.3	2位 三重県	36.7
3位 沖縄県	29.6	3位 長崎県	30.4
4位 千葉県	27.4	4位 千葉県	28.0
5位 三重県	25.7	5位 沖縄県	25.2
6位 大分県	24.7	6位 福島県	24.4
7位 北海道	24.6	7位 青森県	24.3
8位 京都府	24.0	8位 北海道	23.4
9位 石川県	23.9	9位 大分県	22.6
10位 大阪府	23.5	10位 神奈川県	22.5

■特定の観光地・観光スポットに興味があったから

(単位：%)

2014年度 順位		2013年度 順位	
全体平均	63.0	全体平均	64.4
1位 島根県	83.7	1位 島根県	87.6
2位 長崎県	79.7	2位 三重県	80.7
3位 奈良県	79.0	3位 長崎県	78.9
4位 沖縄県	78.7	4位 沖縄県	76.8
5位 京都府	76.5	5位 千葉県	76.4
6位 千葉県	74.1	6位 鹿児島県	75.4
7位 和歌山県	73.8	7位 広島県	75.0
8位 三重県	73.6	8位 鳥取県	74.3
9位 広島県	73.0	9位 京都府	73.8
10位 高知県	72.8	10位 奈良県	73.7

■そこならではの食・特産品に興味があったから

(単位：%)

2014年度 順位		2013年度 順位	
全体平均	40.1	全体平均	39.8
1位 沖縄県	57.5	1位 北海道	58.0
2位 北海道	57.4	2位 香川県	56.7
3位 高知県	56.7	3位 高知県	56.0
4位 石川県	56.5	4位 沖縄県	55.6
5位 香川県	56.4	5位 富山県	54.6
6位 長崎県	53.5	6位 広島県	53.9
7位 広島県	53.4	7位 宮城県	52.1
8位 鹿児島県	50.9	8位 石川県	52.0
9位 京都府	48.9	9位 三重県	49.3
10位 富山県	48.7	10位 京都府	48.6

■良い宿・ホテルがあったから

(単位：%)

2014年度 順位		2013年度 順位	
全体平均	47.4	全体平均	49.1
1位 栃木県	64.1	1位 群馬県	64.9
2位 佐賀県	62.2	2位 静岡県	62.7
2位 大分県	62.2	2位 大分県	62.7
4位 静岡県	60.8	4位 栃木県	62.6
5位 群馬県	60.2	5位 長野県	58.4
6位 熊本県	58.4	6位 佐賀県	58.2
7位 神奈川県	57.0	7位 石川県	58.1
8位 兵庫県	55.6	8位 岐阜県	56.8
9位 長野県	54.0	9位 神奈川県	56.3
10位 岐阜県	53.2	10位 兵庫県	55.9

■魅力的な温泉があったから

(単位：%)

2014年度 順位		2013年度 順位	
全体平均	33.2	全体平均	33.2
1位 群馬県	72.0	1位 大分県	73.3
1位 大分県	72.0	2位 群馬県	67.5
3位 山形県	62.3	3位 岐阜県	60.6
4位 愛媛県	61.6	4位 栃木県	59.7
5位 熊本県	56.3	5位 愛媛県	59.0
6位 秋田県	56.1	6位 山形県	57.0
7位 佐賀県	55.6	7位 佐賀県	56.3
8位 栃木県	55.4	8位 鹿児島県	54.3
9位 岐阜県	53.7	9位 秋田県	53.5
9位 鹿児島県	53.7	10位 石川県	51.9
		10位 熊本県	51.9

<ランキングの算出方法>

※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

①訪問した旅行先を選んだ理由を「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらともいえない」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の5段階から選択。

②「当てはまる」「やや当てはまる」計の割合が多い順にランキング。

■ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった

－ 1位：高知県、2位：北海道、3位：富山県

1位高知県は2年連続、富山県は大幅に上昇して3位（前年度8位）。鹿児島県（同15位）、鳥取県（同27位）、熊本県（同17位）もトップ10入り。

「かつおのタキ」「かつお料理」が圧倒的な支持を集め、高知県が2年連続の首位。次いで2位にランクアップした北海道は「海鮮・魚介類」「かに・かに料理」「海産物」「ジンギスカン」「ラーメン」などがバランスよく支持を集めた。「海鮮・魚介類」「ホタルイカ」「ぶり・寒ぶり」などが支持を集めた富山県が8位から3位にジャンプアップ。「黒豚・豚肉料理」が人気の鹿児島県、「かに・ずわいかに・松葉がに」が人気の鳥取県、「馬刺」が人気の熊本県が前年圏外からトップ10入りを果たした。

(単位：%)

2014年度 順位	
全体平均	57.9
1位 高知県	77.0
2位 北海道	75.8
3位 富山県	74.8
4位 鹿児島県	74.7
5位 沖縄県	74.2
6位 石川県	73.5
7位 広島県	72.1
8位 香川県	71.2
9位 鳥取県	69.9
10位 熊本県	69.7

2013年度 順位	
全体平均	56.7
1位 高知県	74.9
2位 広島県	73.6
3位 北海道	72.8
3位 香川県	72.8
5位 宮崎県	69.9
6位 石川県	69.6
7位 沖縄県	68.7
8位 富山県	68.4
8位 福岡県	68.4
10位 宮城県	67.9

■ 魅力のある特産品や土産物が多かった

－ 1位：沖縄県、2位：鹿児島県、3位：京都府

1位沖縄県は2005年度以来連続1位。前年度5位の鹿児島県が2位にランクアップ。トップ10新顔は石川県（前年度15位）、青森県（同12位）、山形県（同19位）。

1位沖縄県では「ちんすこう」「シーサー」「紅芋タルト・紫芋タルト」、2位の鹿児島県では「さつま揚げ」「焼酎」などが人気を集めた。3位は京都府で「八つ橋」「漬け物」などが挙げられた。新顔の4位石川県では「和菓子」「金箔・金箔製品」が、9位青森県では「りんご」「りんご加工品」「海産物」が、同率9位山形県では「漬け物」「さくらんぼ」「日本酒」「こんにやく・玉こんにやく」など、それぞれ代表的な特産品が挙げられてのトップ10入りを果たした。

(単位：%)

2014年度 順位	
全体平均	47.4
1位 沖縄県	69.1
2位 鹿児島県	66.1
3位 京都府	62.1
4位 石川県	61.0
5位 北海道	60.4
6位 長崎県	60.0
7位 高知県	59.9
8位 富山県	56.1
9位 青森県	55.9
9位 山形県	55.9

2013年度 順位	
全体平均	47.3
1位 沖縄県	65.6
2位 京都府	63.4
3位 北海道	61.0
4位 高知県	60.9
5位 鹿児島県	60.0
6位 富山県	59.5
7位 宮城県	58.8
8位 長崎県	58.0
9位 広島県	57.8
10位 宮崎県	56.0

■ 魅力的な宿泊施設が多かった

－ 1位：沖縄県、2位：大分県、3位：千葉県

1位沖縄県と大分県が前年2位、1位から入れ替わり。トップ10圏外からは7位群馬県（前年度11位）、10位長野県（同18位）がランクイン。

全体的に老舗温泉地名や老舗旅館名を記載する人も多く中で、1位沖縄県と3位千葉県は「リゾートホテル・ホテル」が人気を集めたことでランクを上げた。トップ10圏外からは7位群馬県が「温泉・温泉宿」「草津」「旅館」などが挙げられてランクアップ、また、10位長野県では「温泉・旅館・温泉宿」の他に「ペンション」「コテージ・ロッジ・山小屋」などの回答が目立った。

(単位：%)

2014年度 順位	
全体平均	41.5
1位 沖縄県	59.0
2位 大分県	57.9
3位 千葉県	50.9
4位 熊本県	50.7
5位 神奈川県	49.6
6位 北海道	49.1
7位 群馬県	48.7
8位 岐阜県	48.1
9位 兵庫県	46.5
10位 長野県	46.0

2013年度 順位	
全体平均	41.5
1位 大分県	57.0
2位 沖縄県	55.7
3位 熊本県	50.5
4位 北海道	49.8
5位 千葉県	49.6
6位 神奈川県	48.3
7位 兵庫県	48.1
8位 鹿児島県	47.6
9位 岐阜県	47.5
10位 石川県	46.8

■ 地元の人のホスピタリティを感じた

－ 1位：沖縄県、2位：鹿児島県、3位：岩手県

1位沖縄県は圧倒的なスコア差で2005年度以来連続1位。岩手県（前年度13位）が3位に。6位長崎県（同21位）もトップ10入り。

1位の沖縄県は2.5ptアップして、10年連続で圧倒的な1位に。地元のホスピタリティを感じた具体的なスポットは、「ホテル」や「宿泊施設」という回答が最も多く、宿泊施設スタッフのホスピタリティの重要性が改めて確認できる。前年度から10ランクアップで3位の岩手県では、宿泊施設のほかに「観光案内所」や「道の駅」、「飲食店」など多様なスポットが挙げられた。

(単位：%)

2014年度 順位	
全体平均	23.1
1位 沖縄県	47.2
2位 鹿児島県	34.3
3位 岩手県	31.6
4位 宮崎県	30.8
5位 青森県	30.6
6位 長崎県	30.2
7位 福島県	29.7
8位 高知県	29.0
9位 愛媛県	28.8
9位 熊本県	28.8

2013年度 順位	
全体平均	23.3
1位 沖縄県	44.7
2位 青森県	33.5
3位 鹿児島県	33.1
4位 徳島県	32.8
5位 高知県	32.6
6位 福島県	32.4
7位 宮崎県	31.8
8位 熊本県	31.3
9位 愛媛県	30.3
10位 京都府	29.4

■ 子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：和歌山県

トップ3は2008年度以来変わらず。全国的にテーマパーク・遊園地、動物園・水族館など子供向けエンターテインメント施設に加え、海水浴場やプールが支持を集める傾向。

上位3県（1位千葉県・2位沖縄県・3位和歌山県）は7年連続。6位福井県は前年度27位から急上昇。コメントでは「恐竜博物館」が突出して多く支持を集めた。前年度12位から8位にランクアップの栃木県では、動物と触れ合えるスポットやテーマパークが多く支持を集めた。10位北海道も動物系とウインタースポーツなどの人気で、前年度15位から上昇。

(単位：%)

2014年度 順位	
全体平均	23.1
1位 千葉県	57.8
2位 沖縄県	42.4
3位 和歌山県	36.5
4位 長崎県	33.5
5位 大阪府	29.0
6位 福井県	28.6
7位 三重県	27.6
8位 栃木県	27.5
9位 山梨県	26.2
10位 北海道	23.8

2013年度 順位	
全体平均	23.3
1位 千葉県	58.5
2位 沖縄県	37.8
3位 和歌山県	33.7
4位 長崎県	29.5
5位 大阪府	28.5
6位 山梨県	27.6
7位 三重県	27.1
8位 福島県	25.8
9位 高知県	25.6
10位 大分県	25.5

■ 若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位：千葉県、2位：沖縄県、3位：大阪府

トップ3の顔ぶれは2005年以来変わらず。テーマパークが話題だった大阪府はスコアアップも順位逆転までには至らず。前年度23位の栃木県が9位にランクイン。

全体平均スコアが微減する中、テーマパークの新アトラクションなどが話題となった大阪府がスコアを伸ばしたが、順位の逆転には至らず、2005年以来トップ3の順位が固定されている。新たなトップ10入りは9位の栃木県（前年度23位）だけで、「テーマパーク」「サファリパーク」「アウトレット」「ラフティング」「ゴルフ場」「トリックアート」など、多彩な魅力が若者に刺さったようだ。

(単位：%)

2014年度 順位	
全体平均	25.4
1位 千葉県	53.3
2位 沖縄県	49.5
3位 大阪府	43.1
4位 長崎県	34.0
5位 東京都	33.9
6位 福岡県	29.1
7位 神奈川県	28.1
8位 和歌山県	27.1
9位 栃木県	25.9
10位 北海道	25.8

2013年度 順位	
全体平均	26.2
1位 千葉県	55.2
2位 沖縄県	48.6
3位 大阪府	40.3
4位 福岡県	33.6
5位 東京都	33.3
6位 長崎県	32.7
7位 神奈川県	28.5
8位 和歌山県	27.6
9位 北海道	26.9
10位 高知県	26.3

■ 大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった

－ 1位：沖縄県、2位：千葉県、3位：京都府

沖縄県が2年ぶり1位返り咲き。10位石川県が前年度29位から急上昇、トップ10入りした。テーマパークが強い府県と、名所・旧跡が強い府県にはっきりと傾向が分かれる。

日本を代表するテーマパークのアニバーサリーイヤーが2013年度に終了した千葉県がややスコアを下げ、替わって沖縄県が1位返り咲き。また、テーマパークと大型商業施設で話題を集めた大阪府は8位から6位に順当に順位を上げた。10位に上昇の石川県は、「兼六園」を理由として挙げる人が圧倒的に多かった。「兼六園」自体は目新しいコンテンツではないものの、北陸新幹線開業などの話題性とうまく相乗効果を出せた結果かもしれない。

(単位：%)

2014年度 順位	
全体平均	39.2
1位 沖縄県	56.2
2位 千葉県	54.1
3位 京都府	51.1
4位 長崎県	48.6
5位 奈良県	47.5
6位 大阪府	45.5
7位 島根県	45.2
8位 広島県	42.1
9位 神奈川県	41.8
10位 石川県	41.2

2013年度 順位	
全体平均	41.7
1位 千葉県	59.3
2位 京都府	56.3
3位 沖縄県	54.8
4位 長崎県	50.8
5位 三重県	48.4
6位 島根県	47.2
7位 広島県	46.7
8位 神奈川県	45.1
8位 大阪府	45.1
10位 奈良県	44.4

■ 現地で良い観光情報  
を入手できた

－ 1位：沖縄県、  
2位：奈良県、  
3位：京都府

長崎県、愛媛県、熊本県  
がトップ10入り。

「宿」「交通機関」「観光案内所」  
の他、「観光施設」「物販店」「飲食店」  
などの入手場所が挙げられた。

(単位：%)

2014年度 順位	
全体平均	25.3
1位 沖縄県	43.8
2位 奈良県	36.9
3位 京都府	36.0
4位 青森県	34.2
5位 鹿児島県	33.0
6位 北海道	32.3
7位 長崎県	32.2
8位 広島県	31.5
9位 愛媛県	31.1
10位 熊本県	30.8

2013年度 順位	
全体平均	25.7
1位 沖縄県	43.9
2位 京都府	39.0
3位 青森県	37.4
4位 鹿児島県	35.8
5位 高知県	34.9
6位 宮崎県	34.6
7位 奈良県	32.2
8位 島根県	32.1
9位 北海道	32.0
10位 広島県	31.7

＜ランキングの算出方法＞

※集計は各都道府県への宿泊旅行件数がベース

①訪問した旅行先の評価を「そう思う」「ややそう思う」「ふつう」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択。

②「そう思う」「ややそう思う」計の割合が多い順にランキング。

＜コメントの回答方法＞

「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に任意でコメント記入。

※対象設問：「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった」「地元の人のホスピタリティを感じた」「現地で良い観光情報入手できた」